

滞在施設としての公共図書館における 場のつくられ方に関する研究

内田 文雄 (感性デザイン工学専攻) 田中 寛子 (感性デザイン工学専攻)

A study on the planning of area in the public library as staying facility

Fumio UCHIDA(Prof., Graduate of Science and Engineering, Yamaguchi University)

Hiroko TANAKA(Student Graduate of Science and Engineering, Yamaguchi University)

Abstract: Recently, the style of the public library is diversifies. In this situation, it is important to understand needs of the user and the use actual situation. The purpose of this study is to clarify what is demanded in the present public library, by investigating needs of the user and the use actual situation. An investigation showed the place we can eat and drink is needed, the place we can study with talkative, and the liked area.

Key words: Public library, Staying type library, The use actual situation

1. はじめに

1.1 研究の背景

2003年に指定管理者制度が導入され、公共施設を民間事業者が管理できるようになってから、公共図書館のありかたは多様化している。利用者の大部分が、学校の勉強や受験勉強のために席を利用する者ばかりであった「学生の勉強部屋」時代、本を借りるだけですぐに帰ってしまう利用者が多い「公共の貸本屋」時代を経て、現在「滞在型図書館」や「課題解決型図書館」などが目指されるなど、公共図書館の新しいありかたが模索されている。このような動きがあるなかで、公共図書館の利用実態を把握し、実際にどのような計画が必要とされているのかということを理解する必要があると考える。

1.2 研究の目的

近年、公共図書館のありかたが多様化しており、そのひとつとして滞在施設としての公共図書館が目指されている。そのようななかで、館内での行動や空間の特徴などをもとにした利用実態を把握し、利用者が求めている要素を理解することは必要だと考えられる。

滞在型図書館として計画された図書館はまだ少ないため、滞在型図書館として計画されていない一般的な公共図書館の場の使われ方と、利用者のニーズを把握することによって、いまの公共図書館で期待されていること、足りていない要素を明らかにし、計画の指針を得ることを目的とする。

1.3 研究の方法

公共図書館の利用者のニーズを把握した上で、実態調査を行う。利用者のニーズは、平成27年に行われた宇部市立図書館の市民ワークショップで挙げられた意

見をまとめることにより把握する。実態調査としては、プロット調査と定点観察調査を行う。プロット調査は、館内を調査員が開館から閉館まで15分ごとに巡回して、利用者の存在状況を平面図に記入する。その際、利用者の属性、行為を記録することによって全体的な利用状況を把握する。定点観察調査は、図書館内の一部のエリアで利用者の存在状況、着座行為を1分単位で記録し、エリアごとに詳細な利用状況を明らかにするために行う。対象対象は、山口県内の公共図書館のうち、比較的貸し出し数や登録者数が多く中規模な公共図書館である、宇部市立図書館、防府市立防府図書館、山口市立中央図書館の3館とする。以降、《宇部》《防府》《山口》と表す。

利用者のニーズと、実態調査から明らかになった使われ方を比較することによって、これからの公共図書館に何が必要とされているかについて考察する。

2. 公共図書館の現状

2.1 滞在型図書館

近年、新たな図書館を計画する際「滞在型図書館」ということばがよく使われている。滞在型図書館とは一般的に、本や雑誌を読んだり映画を見たりといった、さまざまな図書館サービスを図書館の中で長時間楽しむことができるような図書館と言われている。また、長時間滞在するために、居心地の良さなど快適性も求められる。

2.2 利用者のニーズ

平成27年に開催された宇部市立図書館の市民ワークショップであげられた意見をまとめることで、利用者のニーズを把握する。

施設に関しては、カフェを併設して欲しいという意見が最も多く、学習コーナーが欲しい、話しながら読書や調べ物ができるグループ学習コーナーが欲しいという意見もあった。また座席に関しては、座席の数と種類を増やして気分によって選びたい、といった意見が多かった。サービスについては、イベントや講座を開催して欲しい、時事問題や季節に関する展示コーナーなど、展示を充実して欲しい、また司書に調査相談がしやすい環境を整えて欲しいなどといった意見が挙げられた。これらの意見をまとめ、利用者に求められていることを「様々な作業ができる多様な場所」「空間の快適性への配慮」「地域情報の発信拠点」「講座・イベントの開催拠点」「運営への工夫」の5つにまとめることができた。

また、これらの意見は一般的に言われている滞在型図書館の要素と一致し、ワークショップの意見からも「滞在型図書館」としての機能が、実際に必要とされていることが確認できた。

2.3 求められている要素

以上のことから、現在「滞在型図書館」が求められていることが分かった。一般的に言われている滞在型図書館と、ワークショップでの利用者の意見から、現在の公共図書館に求められている要素、足りていない要素を以下の2つにまとめることができた。

① 図書館のなかでさまざまな図書館サービスを楽しむことができる

本や雑誌を読む、調べ物をする、映画を見る、音楽を聴く、話し合いながら学習する、カフェで休憩するなど

② 館内で長時間快適に過ごすことができる

雑誌を読むのに適している、学習に適しているなど、用途にあった座席選択ができる

このふたつの要素に沿って考察をする。

3. 公共図書館の利用実態

利用状況を把握するために、プロット調査を行った。3館とも、利用者が多いと想定される、夏休みの土日に調査を行った。調査の結果を平面図に属性ごとに色分けをしてプロット図としてまとめ(Figure1)、プロット数から算出した座席利用率と、15分ごとの利用者の在館状況から使われ方の特徴を分析した。プロット調査から分かったことは以下の通りである。

1) 飲食コーナーの必要性

《宇部》には飲食コーナーがあり、Figure 2の12:30のように昼食の時間帯には満員状態が続き、利

用者に必要とされていることがわかる。《防府》《山口》の館内には飲食コーナーが設けられていないが、昼食の時間帯になると座席に荷物を置き、館外のベンチで昼食を済ませる利用者が見られた。ワークショップでも、飲食コーナーが欲しいという意見が挙げられており、実態調査からも飲食できる場が求められていることが分かった。

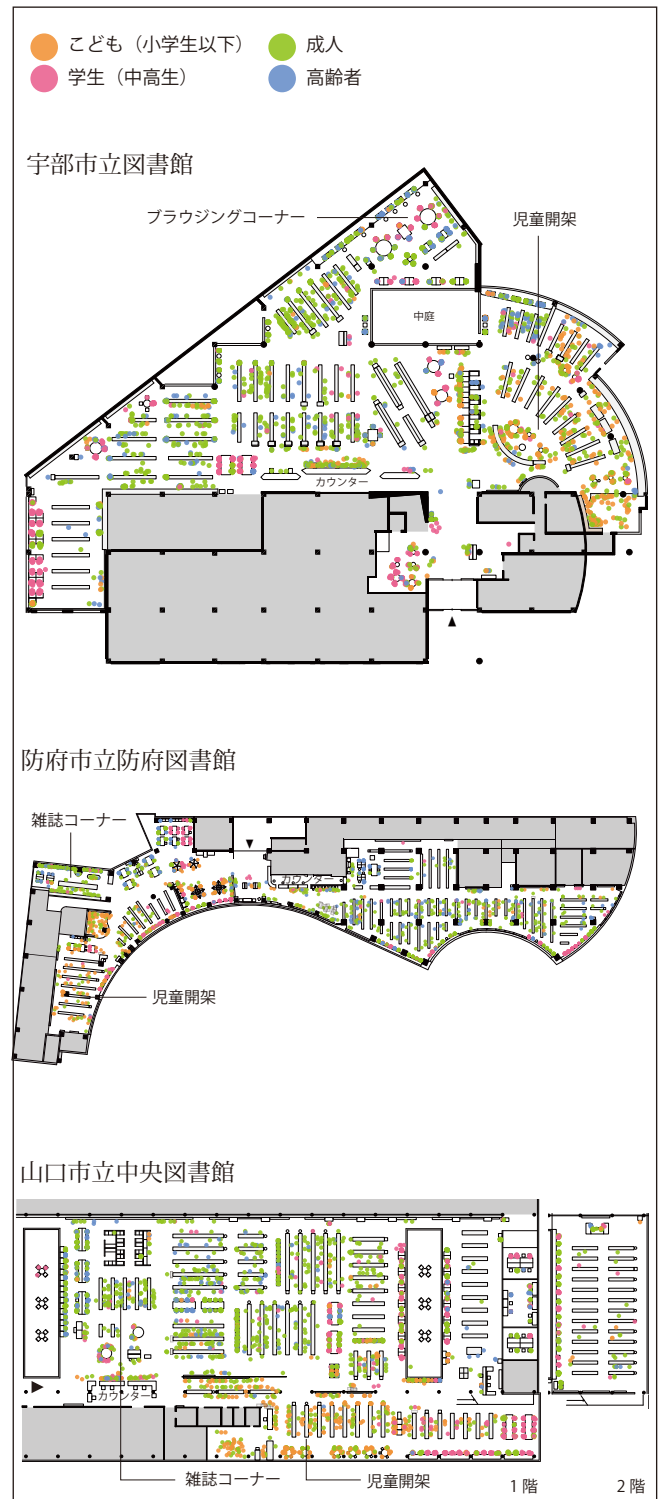


Figure 1. プロット図 (開館から閉館まで)

2) グループ学習コーナーの必要性

《宇部》の飲食コーナーはFigure 2に示すように、10:00に打ち合わせに利用する成人や、15:45にグループで学習する学生のように、会話を必要とする際にも利用されていることも分かった。ワークショップで「会話をしながら作業ができる場所が欲しい」という意見が挙っていたが、実態調査からもそのような場が必要とされていることが分かった。

3) 好まれる座席の種類

Figure 4から分かるように、宇部では、キャレルⅠ、キャレルⅡ、テーブルの順に、山口ではキャレル、カウンター、テーブルの順に座席がうまっていった。周囲に他人が座れない座席ほど人気があるといえる。

また、防府市立防府図書館には高さの異なる2種類

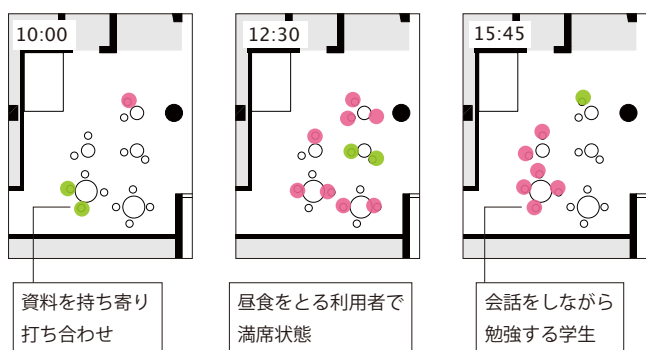


Figure 2. 《宇部》飲食コーナープロット図

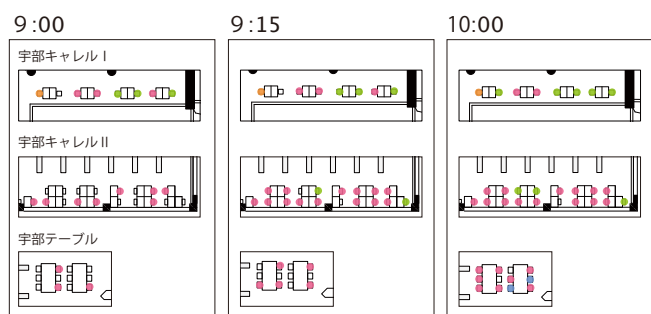


Figure 3. 《宇部》キャレル・テーブルプロット図

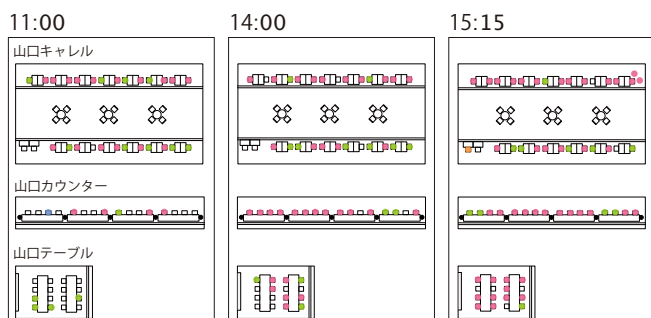


Figure 4. 《山口》キャレル・カウンター・テーブルプロット図

のカウンターデスクがあり、エリアB,Eの一般的な高さのカウンターデスクの利用率は67%、42%で机の高さが100cmあるエリアC,Dでは29%、30%と一般的な高さの席のほうが使われていた。

防府市立防府図書館の雑誌コーナーには、閲覧機とソファがあるが、座席利用率がソファ28.8%、閲覧機19.3%とソファの方が2倍ほど利用率が高かった。よって、雑誌の利用者は、机よりもソファを好む傾向があると考えられる。

4) 好まれる座席の位置

Figure 5に、《山口》2階のカウンターデスクのプロット図を示す。開館直後の10:00は、両端が利用されている。11:45には、ひとつやふたつ空けて席が埋まってきている。13:30には徐々に間の席も利用されてきて、14:00になると満席に近い状態になった。このように、カウンターのような1列に並ぶ座席では特に、端から、そして一つ空けて埋まっていくことが分かった。

4. 場の使われ方

4.1 調査概要

次に、着座行為を分析するために、3館のいくつかのエリアで定点観察調査を行った。選定エリアは、プロット調査から長時間滞在が多く利用率が高いと分かった、キャレルデスク、カウンターデスク、テーブルと、回転が早く多くの人に利用されているベンチ、ソファのある5種類のエリアとした。また、プロット調査の結果とあわせて、着席してから立ち上がるまでの「連続着座時間」、着席している時間と、荷物などで席を確保している時間をあわせた「座席占有時間」のそれぞれの平均値、どの程度座席が利用されていたかを表す「座席占有率」「最も利用していた人」「最も多かった行為」を求める。ソファ、ベンチは荷物によ

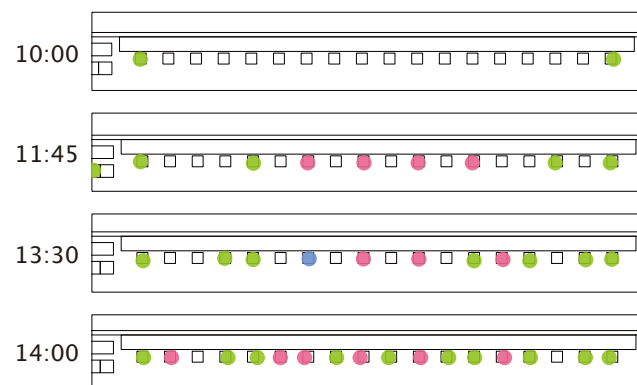


Figure 5. 《山口》カウンターデスクプロット図

る座席確保はほぼなかったため、連続着座時間と座席占有時間が等しくなっている。以上をエリアの種類別に分析したものがTable 1である。

4.2 エリアごとの使われ方

キャレルデスク、カウンターデスク、テーブルなど、机のある座席では、勉強や読書などに利用する長時間滞在が多い。平均座席占有時間がキャレルデスクは約4時間半、カウンターデスク2時間半、テーブル席では約3時間となっている。また利用者は成人、学生が多く、行為内容は学習、読書の割合が高い。

ベンチやソファなどは、10~20分間の利用や休憩のための短時間の利用が多く、平均して連続着座時間はソファで20分、ベンチは11分であった。また利用者は成人、高齢者が多い。

Table 1. 家具別利用状況

		連続着座時間(分)	座席占有時間(分)	座席占有率(%)	利用者	行為
キャレル	宇部 C	94	288	98	成人、学生	勉強
	宇部 D	122	345	96	学生	勉強
	山口 F	95	194	83	成人、学生	勉強
カウンター	防府 B	87	154	67	成人	読書
	防府 C	66	100	29	成人	読書
	防府 D	70	132	30	成人	勉強
	防府 E	105	166	42	学生	読書
	山口 E	106	174	60	学生	勉強
テーブル	宇部 E	99	248	82	学生	勉強
	山口 G	65	119	41	学生	勉強
ソファ	宇部 A	25	46	46	高齢者	読書
	宇部 B	15	38	38	成人	読書
	防府 A	15	35	35	成人	雑誌
ベンチ	山口 A	5	7	7	成人	読書
	山口 B	10	21	21	成人	読書
	山口 C	9	38	38	成人	漫画
	山口 D	19	24	24	成人	漫画

定点観察調査から見られた、使われ方の特徴を以下に記す。

1) 利用されやすい席

カウンターデスクは、両端の席が人気であった。ソファやテーブルなど座席の種類に関わらず、3人並んで座る席では、両端の席の方が真ん中よりも利用されやすいことが分かった。特にソファでは、真ん中の座席はほとんど利用者がいなかった。

2) 書架近くのベンチ・ソファ

雑誌コーナー、漫画コーナーのソファやベンチでは、一度席を立て、目の前の書架から別の本を選んですぐに同じ席に戻ってくる利用者が多数いた。また、一回の着席時間は比較的短めであった。(Figure 6) ソファやベンチの利用者は、すでに座っている利用者とできるだけ距離のとれる位置に座ることがほとんどであり、空席が少ない場合には、座席の切れ目に座ることで他人との距離を保つ利用者も見られた。また、休憩や待ち合わせ、本を選ぶ際の荷物置き場として利用されることもあった。特に書架の前にベンチがある場合は、何冊が書籍を持ってきて、借りる本や読む本を検討する場としてよく利用されていた。

3) 家具の形態と行為

《宇部》にはブラウジングコーナーにキャレルデスクがあるが、そこでは勉強をする人が多かった。その場で行われる行為は、家具が置かれているゾーンよりも家具のかたちが影響すると考えられる。

5. 考察

実態調査から明らかになったことを前に述べた現在の公共図書館に求められているふたつの要素に沿って以下にまとめる。

① 図書館のなかでさまざまな図書館サービスを楽しむことができる

1) 施設や設備については、宇部市立図書館の飲食コーナーの使われ方から、カフェを併設する、または飲食コーナーを設けるなど館内で飲食できる場所が求められていること、またグループ学習コーナー、気兼ねなく親子で読み聞かせができるコーナーなど、会話ができる空間が求められていることが分かった。

2) 座席については、いくつかの種類を用意し、用途や気分によって選べるような計画が好まれるということが分かった。

② 館内で長時間快適に過ごすことができる

3) キャレルデスク、カウンターデスク、テーブルの

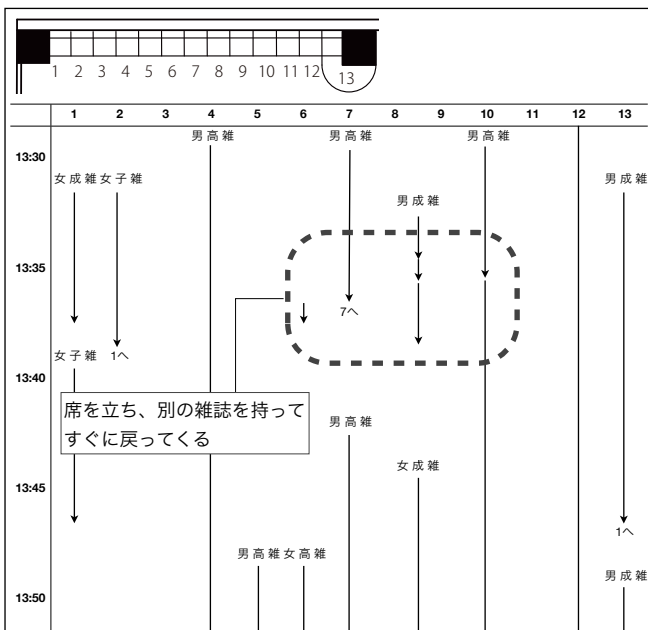


Figure 6. 雑誌コーナー使われ方《防府》

順に座席がうまることや、1列に席が並ぶカウンターなどでは端から、そしてひとつやふたつ空けで利用者が座っていくことが明らかになった。家具の選択、座席選択どちらにおいても、他人と距離がとれるような家具、席が好まれることが分かった。周りを気にせず、ひとりで集中できるような場が求められていると考えられる。

4) 宇部市立図書館のブラウジングコーナーにあるキャレルデスクで勉強をする利用者が多かったことから、ある場所で行われる行為は、家具が置かれている場所の性質よりも家具の形状や機能が影響すると考えられる。したがって、その場所にふさわしい家具を配置するべきだと考えられる。

5) 雑誌コーナー、漫画コーナーでは、利用者が本を読み終わると一度席を立って、目の前の書架から別の本を選んですぐに同じ席に戻ってくることが多いということが分かった。また雑誌の利用者は、机よりもソファを好む傾向がみられたため、書架の近くにある程度ソファやベンチがあると使われやすいことが分かる。

6) 一般開架においては、机のある席は、学生、成人が勉強に使うことが多く、もっとも好まれる家具はキャレルデスクであった。また、本を選ぶ際に座ったり荷物を置いたりする利用者のために、一般開架にはベンチや椅子が必要であるといえる。

以上のように、利用者のニーズや利用実態を把握し、必要とされている空間や好まれる場について理解したうえで計画をするとよいと考えられる。

6. まとめと今後の展望

本研究では、現在の公共図書館に求められているもの、足りていない要素を明らかにし、滞在施設としての公共図書館が求められていることがわかった。さらに実態調査をすることで必要とされている空間や、好まれる場の性質を明らかにすることができた。しかし、滞在型図書館としての要素すべてを調査できた訳ではない。今後の展開としては、滞在型図書館の使い方方を調査し、滞在型図書館の利用実態から、今後図書館を計画するうえでの新たな課題を得ることができると考える。

参考文献

- 1) 植松貞夫「滞在型図書館」建築雑誌 1995年3号(1995)
- 2) 富江伸治「図書館建築 そのデザインの変遷」図書館雑誌 2008年6号(2008)

(平成28年3月23日受理)